

# ふくしまの留学生と 国際交流 2012

International Students of Fukushima Prefecture and International Exchanges

アカデミア・コンソーシアムふくしま





福島大学

お名前 ルハガウスレン・ウーガンスレン

出身国 モンゴル

(所属校)
Фукушима и сургууль
(お名前)
ЛХАГВАСУРЭН Уугансүрэн



Би Фукушимад амьдрал, сурч байгаагаа
Баялагтай мэдэе. Гараад өгөгдөл болохот
узурга мөнх өгөгдөлөөс шүүг хэврт
зүрхэн эргүүлж өгнө. Мөн гэдэг амьдрал
түүний эхлэл бий э Фукушиманын сай-
хан соёлттой хүчин. Баян нэр гурвал
иа сургууль баян, амжиллын өргөтөл, нийц
лөхдөө туслахтайгаар түүг сайхан
алсдарт сайн сурч ларна.

(日本語訳)
私は福島市に暮らしていることを誇りに思っています。
留学生なので、当然日本人の学生より多くの努力
が必要ですが、日本での留学生活は決して容易では
ありません。
しかし、福島の良い人々、とくに大学の先生方、
職員、学生たちのおかげで楽しい生活を送ることが
できます。

日本大学工学部

お名前 張彬

出身国 中国

(所属校)
日本大学
(お名前)
張彬



这里不是繁华喧嚣的大都市，这里的冬天一样能
积雪寒风。
但是，这里拥有最阳光
最坚强的笑容迎接明天。
这里，机遇与挑战并存。

(日本語訳)
ここには繁華な大都市ではない。
この冬には同じように雪と風が激しい。
しかし、ここには最も明るいとも最も頑張る笑顔を
持って明日へ迎える。
ここにもチャンスとチャレンジが共存している。

福島大学

お名前 呂志剛

出身国 中国

(所属校)
福島大学
(お名前)
呂志剛



2010年，因为对福岛县的特产—水果
感兴趣，觉得福岛应该是个山清水秀的
地方，所以我报考了福岛大学。
经过这这年的学习、生活，觉得福岛
果然是个静心学习的好地方，空气清新，
还高喧嚣。虽然经历了3.11大地震，但是
经过灾后重建，现在的福岛基本回复到了
以前的水平。所以，亲福岛吧，朋友们！

(日本語訳)
私は最初、福島に来ったのきっかけは、福島の名
物—ももに興味があったから。
3年たったの今、私に印象を残ったのは、福島の
新鮮な空気と静かな学習の環境。
ここで留学したのは本当によかった。

福島大学

お名前 キム・ボス

出身国 韓国

(所属校)
후쿠시마 대학교
(お名前)
김보스



안녕하세요. 저는 유학 1년차 학생입니다.
3.11 동일본대지진으로 인한 원발사고가 있었지만,
이곳 사람들은 여전히 평화롭고 힘차게 살고 있습니다.
오기전에는 많이 불안했었지만, 지금은 분명 느끼는 점이
많습니다. 이렇듯이 때문에 배우는 것도 많고 얻는 것도
많아요. 감전 경험을 하고 있어요.
걱정도 많았지만, 오늘 잘 해라는 생각이 들어요.
어려볼수록 한번 가서 직접 보고 듣고 판단해 보세요.

(日本語訳)
こんにちは、私は留学1年次の学生です。
3.11東日本大地震による原発がありました、福
島人たちはいまだにも平和で力強く生えています。
来る前には、とても不安でしたが、今はみて感じる
ことが多いです。福島だから学べるのも得られるのも
多いです。値打ちのある経験をしています。心配も多
かったですが、来てよかったですと思っています。
みなさんも一度来て、直接みて、聞いて判断してみ
てください！

日本大学工学部

お名前 ダンダル・トルガ

出身国 モンゴル

(所属校)
Нийслэл ир сургууль
(お名前)
Д. Тулга



Япон бол техник технологи,
сөөл урлагчлаар ондоор хөгжилтэй
орон. Хамтдаа Японд хөгжилтэй
суурьтай, төр орныхоо хөгжил
дэвшинд хүч нэмж болох хүч
болохын төлөө хийж байна.

(日本語訳)
日本は技術やマナーがとても優れた国であります。
共に日本の技術を学び、母国の発展に役に立つ
人間になるために頑張ります。

東日本国際大学

お名前 グンレグ・ドラムスレン

出身国 モンゴル

(所属校)
Зүүн япон асан
(お名前)
Гунрег Д. Драмсүрэн.



Сайн байгалийн үү!
Намайг Зүүн япон асан Гунрег
Д. Драмсүрэн гэдэг. Би
Зүүн япон асан Гунрег
Д. Драмсүрэн гэдэг. Ивээн хой
бол үнэ асар болон асартай
эртэй байхын хувьд, алсдарт
ад зам технологийн хөгжил
Тийм болохор та бүхний
магалийн сургуульд хүч нэх
Зүүн япон асан Гунрег
Д. Драмсүрэн гэдэг гэдэг
Зүүн япон асан Гунрег
Д. Драмсүрэн гэдэг

(日本語訳)
みなさん、こんにちは。
私の名前はドラムスレンです。
私は福島県いわき市の東日本国際大学で勉強
しています。
いわき市は天気もいいし、物価もやすい。生活して
勉強するにはとてもよい町です。
なので、みなさんこの学校に来て、楽しい時間をす
ごしてください。

会津大学

お名前 ヴォン・ヴィエツ・マイ

出身国 ベトナム

(所属校)
University of Aizu
(お名前)
Vuong Viet Mai



Tôi đã đến Nhật Bản được gần 4 tháng
và đang sống ở thành phố Aizu.
Đây là một thành phố nhỏ xinh
xắn, nổi tiếng với lịch sử lâu đời
về các Samurai. Con người Aizu
thật hiền, hiền hòa và hiếu khách.
Nếu có cơ hội, bạn hãy đến đây
để được từ mình cảm nhận về
đẹp cảnh quan và con người nơi
đây.

(日本語訳)
私は日本に来て4ヶ月になります。
ここ会津は、冬になると真っ白な雪で覆われる、と
ても美しい街です。
また、歴史でも有名な“サムライ”の街でもあります。
会津の人は礼儀正しくてとてもやさしいです。
もし機会があれば、是非会津若松に来て、真の日
本を体験してください。

福島大学

お名前 チャン・ティ・フエ

出身国 ベトナム

(所属校)
Đại học Fukushima
(お名前)
Trần Thị Huệ'



Nhật là một đất nước rất thích
hợp để các em tu học, tự mình
tìm thấy ước mơ của mình. Chỉ
cần các em cố gắng. Người Nhật
rất thân thiện và có nhiều hoạt
động giao lưu, giúp đỡ du học sinh.
Mong được gặp lại các em ở Nhật.

(日本語訳)
日本では自立して、自分の夢をつかむことができま
す。自分の努力が全てです。
また、日本人はとても親切です。留学生と交流し、
留学生を支援する活動はたくさんあります。
また、日本で会いましょう。

東日本国際大学

お名前 ミン・ゾー

出身国 ミャンマー

(所属校)
အိတ်ဂျိယွန်း ဝေါ့အိတ်ဂျိယွန်း
(お名前)
မင်းဇော်



ပျော်ရွှင်စရာ(၅)လတာကပဲ ငါ့အတွက်
အလုပ်အကိုင် အိတ်ဂျိယွန်းမှာပဲ အလုပ်အကိုင်

(日本語訳)
日本に来て5ヶ月くらいだった時、大きい地震があ
りました。
しかし、日本人達は外国人を自分のこのように助
けてくれました。東日本国際大学の先生達も留学生
を大切に守ってくれました。
だから、私達は安全に今まで過ごしています。先生
方、本当にありがとうございます。

日本大学工学部

お名前 アイ・トウ・コクリョウ

出身国 中国

(所属校)
日本大学
(お名前)
艾东克隆



我在福岛县的郡山市已经生活了4年
福岛县空气清新，环境宁静，比起大
城市，这里的物价便宜，周边的居民也十
分友好，是一个适合学习、生活的城市。希
望来此留学的同学们不仅要学习自己
的专业知识，并且要融入这里的生活，
理解日本的文化，为中国友好关系
做出一份小小的贡献。

(日本語訳)
私は福島県郡山市に4年間いました。福島県の
空気がきれい、静かな環境です。
大都市に比べ、物価が安くて、周辺の住民たちも
親切です。ここは、勉強及び生活にふさわしい町だ
と思います。
福島県に留学しようと考えているあなたへ。
留学に来て、専門知識を学ぶだけではなく、日本
の文化も理解し、日中友好関係に自分の力を注ぎま
しょう。

福島大学

お名前 オーマル・ムザパル 出身国 中国・ウイグル

中国語

(所属校)
福島大学
(お名前)
奥玛尔·穆扎法尔



日本是一个你可以实现
楚想的国家。加油吧，
在这美丽的福岛你一
定可以实现你心中
的楚想。

(日本語訳)
日本は頑張れば必ず自分の夢を実現できる所だ。
この美しい福島で夢のために頑張ろう！

ウイグル語

(所属校)
فوكوشىما ئونۋېرستىتى
(お名前)
مۇزىپەر مۇزاپەر

يا بونىيە بولسا تىرىشكىنلا
چۈشكىننى رىئاللىققا كاتاياندۇرالا
دىغان بايى.
فوكوشىمادا گۈزەل ئەمەلنىڭ
ئۈمىدون تىرىشكىن!

留学生から後輩へのメッセージ

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業

ふくしまの未来を拓く「強い人材」づくり共同教育プログラム

各大学の取組

- 4 福島大学  
福島を発信することで、世界とつながる
- 5 会津大学  
ACFグローバル教育推進プログラムとの協働  
ふくしまの現状、魅力を世界に発信
- 6 東日本国際大学  
留学生への就職支援
- 7 日本大学工学部  
将来は外資系の企業に就職したい!

日本から海外へ、海外から日本へ

日本から海外へ

- 8 ●ルール大学ポーフム交換留学体験記 ～ドイツでの生活について～  
福島大学 行政政策学類 3年 田中 真衣
- 研修報告(ローズハルマン工科大学)  
会津大学 大野 綾香

海外から日本へ

- 9 ●世界で学び、研究し、故郷の福島に貢献したい  
日本大学大学院 工学研究科 博士前期課程3年 機械工学専攻 サステナブルシステム研究室 永澤 和憲
- 美しい福島 ～福島での出会い～  
福島大学 経済経営学類 2年 許 傑弟 [中国]
- 10 ●JASSOプログラム最終報告書  
会津大学 ドナ マーシュ [アメリカ]
- 日本で学んで  
東日本国際大学 エヴァン セティオン [オーストラリア]
- 11 ●私の心の中の日本  
東日本国際大学 李 琳 [中国]
- 素晴らしい留学体験  
日本大学大学院 工学研究科 機械工学専攻 博士前期課程 1年 プラワットローイ ノッパドン [タイ]

留学生関連資料

- 12 外国人留学生の受け入れ状況  
出身国・地域別留学生数
- 13 地方別・都道府県別留学生数  
福島県内高等教育機関における外国人留学生の受け入れ状況
- 14 国・地域別外国人留学生数
- 15 私費留学生の奨学金別受給状況  
留学生の寄宿状況
- 16 平成24年度 福島県内高等教育機関における  
研究・教育交流協定締結校名

ふくしまの未来を拓く  
「強い人材」づくり共同教育プログラム

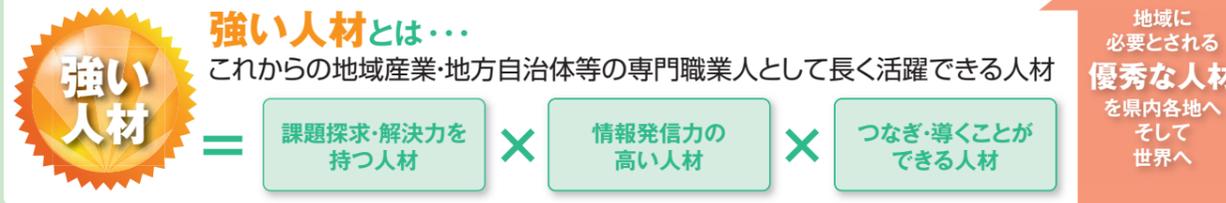
取組大学

福島大学(代表校)、会津大学、福島県立医科大学、いわき明星大学、奥羽大学、郡山女子大学、東日本国際大学、福島学院大学、日本大学、放送大学、会津大学短期大学部、いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部、桜の聖母短期大学、福島学院大学短期大学部、福島工業高等専門学校

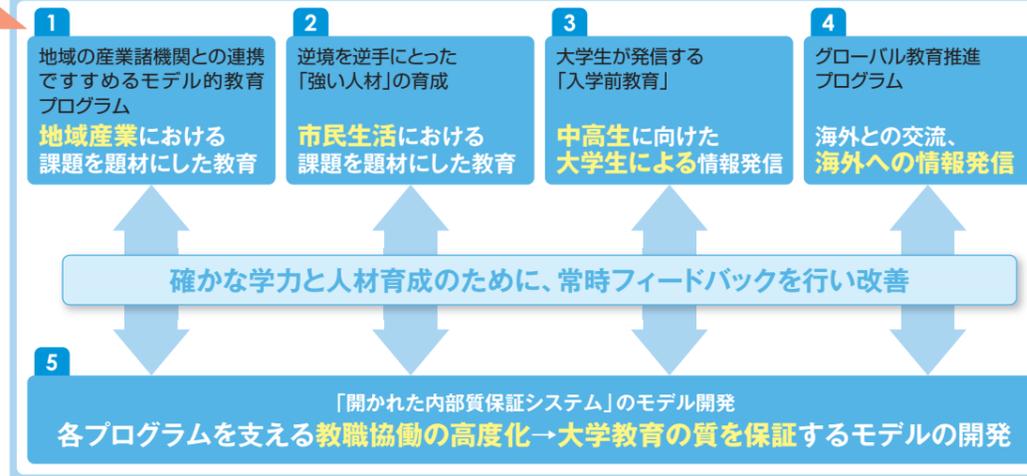
取組の概要

我が国を取り巻く社会・経済環境は極めて流動的・不安定で、特に若い年齢層は過酷な環境に置かれています。また、福島県では、少子化・人材流出等による県全体の競争力の低下が深刻です。そこで、県内の高等教育機関が単独の力だけでは切り抜けることができない課題に対して大学間の連携により取り組み、逆境を乗り越え専門職業人として長く活躍できる「強い人材(課題探求・解決力を持ち、情報発信力が高く、つなぎ・導くことのできる人材)」を育成し、地域にある高等教育機関としての役割を果たします。

成果:この取組で育成する人材像



ステークホルダーと共に取り組む内容



地域とともに  
大学間連携共同教育推進事業

背景

地域のステークホルダー(県、市長会・町村会、経済諸団体)からの地域人材の育成に対する**大学等への期待**

地域の意識= **地域人材育成の危機**

◆県内の優れた人材の県外流出・県全体の競争力の低下  
◆少子化・財政ひっ迫による諸困難と社会システムの機能不全

東日本大震災・福島第一原発事故によって加速・深刻化

**現状**

## グローバル教育推進プログラムについて

### 事業の目的

この事業は、世界中に「ふくしまの今」をアピールし国際化を進めます。原発事故によってマイナス・イメージが生まれている福島県から、積極的な情報発信を行い、併せて留学生の学習環境を整備していきます。

これにより、国際的スケールでの「風評被害」を払拭して地域全体の復興に資するだけでなく、国際的人材の供給にも貢献できると考えています。

### 事業内容

#### a) ショートステイコース実施による日本人学生のグローバル教育

短期間の日程で福島県を訪れる外国人学生と県内の学生が交流し、県内各地域で生きた知識を学びあうことにより、日本人学生へのグローバルな教育効果を高めます。

#### b) 留学生受け入れ態勢の整備

留学生と日本人学生によるパネルディスカッション大会など、日本と海外の文化の多様性を相互理解するための企画を実施します。この冊子「ふくしまの留学生と国際交流2012」も、こうした相互理解を深めることを目的に作成しました。

また、地元企業インターンシップや就職支援により、留学生が福島で就業するための仕組みを構築します。

#### c) 「外国人が来る」福島のための海外向け広報

地域と対象を厳選したうえで海外での「福島セミナー」を開催します。また、重点国の教育関係者を福島に招待し現状を知ってもらう見学・交流会を企画します。

#### d) NAFSA (Association of International Educators) へ共同参加

日本および福島における放射線の現状、および「復興」に向けた教育事業を、正確なデータとともに世界に発信します。

## 他のプロジェクトについて

福島県における現下の教育問題は、限られた特定の課題だけを追求・解決することによって対処できるものではないと考えています。中長期的に取り組むとするなら、ある程度広範囲な領域にわたる事業を系統的・計画的に展開していかなければなりません。この取組のテーマである「強い人材の育成」を実現するため、以下の5本の柱を立てて臨みます。

事業名	事業内容
①地域の産業諸機関との連携の下で すすめるモデル的教育プログラム	a) 「あえてたいへんなことをさせる」教育プログラムの開発・実施 b) 地域産業界のニーズに沿った卒業研究やゼミナール活動 c) 地域との連携にもとづいた現場実践教育の推進 d) 就職活動のストレス対策
②逆境を逆手にとった 「強い人材」の育成	a) 災害復興をテーマとしたエリアキャンパス・プログラム(ACP) b) 災害ボランティア活動を通じた学生の教育 c) 「福島学」から「福島復興学」への展開
③大学生が発信する「入学前教育」	a) 大学生が発信する高大連携 b) 学生とともに行う科学技術教育 c) 「ふくしまの大学」のバージョンアップ d) 県内合同大学説明会の開催 e) 放射線の状況・対策に関する情報発信
④グローバル教育推進プログラム	a) ショートステイコース実施による日本人学生のグローバル教育 b) 留学生受け入れ態勢の整備 c) 「外国人が来る」福島のための海外向け広報 d) NAFSA (Association of International Educators) へ共同参加
⑤「開かれた内部質保証システム」の モデル開発	a) 地域の期待を反映した学修成果の設定 b) 学修の基盤となる初年次教育プログラムの開発 c) 人材育成を担う「教職協働」体制の高度化

## 福島大学



# 福島を発信することで、 世界とつながる

福島大学国際交流センター  
(Fukushima University International Center略称:FUIC)

福島大学国際交流センターは、海外の大学等との学術交流及び学生交流の企画・推進、留学生教育の企画立案及び教育研究面での国際交流を図ることを目的として、平成24年4月に設立されました。留学生の派遣及び受け入れ、短期留学プログラムの企画・立案、留学生の修学上及び生活上、修学環境の整備及び充実に関するサポートを行っています。

「FUKUSHIMA」は世界共通語となったと言えるほど、東日本大震災と原発事故は海外メディアの注目を浴びました。そのため、震災直後から世界中の関心が福島大学に寄せられており、奨学金や、福島でしかできない研究交流・学生交流・学習機会が数多く生まれています。これまでの国際交流は、どちらかというと海外の文化を体験するという側面が大きかったのですが、震災後は「海外へ福島の情報発信を行う」という新しい意義が加わりました。国際交流は、学生にとって、世界を知る絶好の機会と言えます。また、福島大学では、短期プログラムなどで来県する留学生や研究者が例年以上に増えており、それらの学生やプログラムをサポートする学生ボランティアなどの輪も広がっています。



▲福島大学外国人新入留学生歓迎会



▲ミドルテネシー州立大学 ▲後期留学フェアウィーク ▲留学生就職セミナー 学生受入

### 福島大学国際交流センター 2012年4月～2013年3月までの主な行事(実施場所)

5/9～11/21	留学生日本語補講(福島大学) *留学生を対象とした日本語補講を水曜の午後に行いました。	8/4～8/22	ソウル市立大学サマープログラム学生2名参加(ソウル<韓国>) *韓国語や韓国文化について学び、現地の学生とともにアクティビティに参加しました。
5/16	福島大学外国人新入留学生歓迎会(福島大学) *福島大学外国人留学生後援会主催の歓迎会を行いました。	8/28～8/29	河北大学訪問(保定市<中国>) *交流協定校である河北大学を本学国際交流センター長が訪問し、大学関係者と意見交換を行いました。 北京留学フェア参加(北京<中国>) *北京で開催された留学フェアでは、66名の方が福島大学ブースを訪問されました。
5/18	コロラド州立大学研究者来学(福島大学) *コロラド州立大学より研究者の皆様が来学され、震災後の福島の状況等について、本学学長らと意見交換をされました。	9/1～9/23	クイーンズランド大学短期語学研修学生16名参加(ブリスベン<オーストラリア>) *ホームステイしながら、語学研修に参加し、最終日には「震災後の福島」についてプレゼンテーションを行いました。
5/21～5/25	前期留学フェアウィーク(福島大学) *協定校や留学についての情報提供、相談会、留学経験者による座談会を実施しました。	9/10	メルボルン大学講演(福島大学) *メルボルン大学リチャード・ジェームス氏らにより講演「豪州における学士課程教育改革と質保証の取り組み」が行われました。
5/27～6/1	NAFSA2012年次大会参加(ヒューストン<アメリカ>) *NAFSA(国際教育交流協議会)年次大会で、震災後の日本留学についての発表や、交流協定校担当者らと意見交換を行いました。	9/18	国際理解講座(月輪小学校) *留学生5名が国際理解講座を担当し、各国の「あそび」について紹介しました。
6/6～6/13	Fukushima Ambassadors Program I <ミドルテネシー州立大学学生受入短期プログラム>実施(福島市、相馬市、会津、いわき市) *10名のアメリカ人留学生が参加し、東日本大震災後の福島の復興の様子について学びました。	10/4	ハノイ・フィルハーモニー管弦楽団員来学(福島大学) *ハノイ・フィルハーモニー管弦楽団員と福島大学生がアンサンブルを行いました。
6/20	駐日ルーマニア大使来学(福島大学) *セルバン・駐日ルーマニア特命全権大使が来学し、学長および学生らと意見交換を行いました。	11/14～11/17	MEDICA2012(デュッセルドルフ<ドイツ>) *MEDICA(国際医療機器展)で出展企業とともに研究成果発表に参加しました。
6/22	ライスレイク親善団・三春町国際交流協会来学(福島大学) *アメリカウイスコンシン州から三春町とゆかりのあるライスレイク親善団が来学され、放射線防護セミナーでの意見交換や学内視察をされました。	11/28～12/4	後期留学フェアウィーク(福島大学) *留学に必要な費用・留学の形態・各国の特徴などについて、説明会がありました。
6/27	駐日アメリカ大使来学(福島大学) *ルース駐日アメリカ大使が本学を訪問し、学生らと意見交換会を行いました。 学生企画「安田菜津紀さん講演会」 *福島大学生による国際交流企画の一つとして写真家の安田菜津紀さまをお招きしました。	1/8～1/18	Fukushima Ambassadors Program II <アルバーニ大学学生受入短期プログラム>実施(福島市、相馬市、会津、いわき市) *9名のアメリカ人留学生が参加し、東日本大震災後の福島の復興の様子について学びました。
7/11	IRSN次長来学(福島大学) *IRSN(フランス放射線防護原子力安全研究所)次長が来学され、放射線関連の取り組みや除染状況等について、本学副学長(研究)らと意見交換を行いました。	2/12～14	MD&M WEST2013(カリフォルニア<アメリカ>) *MD&M(医療機器関連展示会)で、他大学とともに研究技術紹介を行いました。
7/18～11/21	留学生対象就職セミナー実施(福島大学) *日本での就職活動にあたり、留学生に必要な基本知識や心構えについて、全6回に渡って学習しました。	2/15	学生企画「坂本達さん講演会」(コラッセふくしま) *福島大学生による国際交流企画の一つとして(株)ミキハウスの坂本達さまをお招きしました。
7/23	ふくしまベトナム友好協会・フオンドン大学学生来学(福島大学) *フオンドン大学学生2名が本学学生と交流を行いました。		

## 会津大学



# ACFグローバル教育推進プログラムとの協働 ふくしまの現状、魅力を世界に発信

会津大学 国際戦略本部  
川口 立喜

復興への過程が長期化する中、原発の事故による風評被害への対策もまた、重要な課題の一つであるが、容易に払拭できないのが現状である。しかし、ふくしま、会津大学の現状を世界に発信することが、これから私たちができること、すべきことであり、今後もふくしま、会津の特性を生かし、地域との連携を深め、留学生支援、グローバル人材育成に取り組んできた。ここでは、その活動について紹介したいと思います。

### 1.ふくしまを発見、世界に発信し隊

東日本大震災や原発事故による影響が福島県全土に及ぶ中、人口減少と高齢化のさらなる進展が懸念される過疎・中山間地域において、集落が本来有している住民同士の絆や相互扶助の精神、地域固有の伝統文化や慣習、美しく豊かな自然や景観といった地域の「内なる力」を維持・強化するため、大学生を集落に派遣し、大学生の持つ新しい視点や行動力、専門技術・知識など「外からの力」を活用することによって、集落の「地域力」を再生・育成し、地域の復興と振興を図るプログラムに本学の日本人学生、留学生がチームを組み参加している。

会津若松から2時間のところに位置する集落を1カ月に2回、3回訪れ、その地域に伝わる風習、文化の体験を通して地域、集落の魅力を発見し、その情報をウェブサイト、ポスターをとって世界に発信している。メディア等でネガティブなイメージが広まっている中、地域の方々や信頼関係を築き、地元の方、日本人学生、留学生の生の声が風評被害、ふくしまのファンを増やす良いきっかけとなる。今後も地域の方々や協働して、魅力的なふくしまを発信、海外から留学生、多くの方が訪れやすい基盤づくりをしていきたい。



### 2.各国の国際交流担当者への情報発信、ネットワーキング

各国の大学や研究機関との派遣受入プログラムを推進するに当たり、国際交流担当者との信頼関係、相互理解は不可欠であり、情報発信源として重要な役割を担っている。電子メール、テレビ会議等でやり取りをしているが、直接互いに訪れ意見交換することにより、更なる関係を構築することができる。

KAIE(Korean Association of International Educators 韓国国際教育担当者協会)の年次大会が実施されるのにあたり、JAFSA(Japan Network for International Educator 日本国際教育交流協議会)より特別セッションにおいて「会津、ふくしまの今」について各国の国際交流担当者に理解を深める機会を頂いた。

事例発表にとどまらず、韓国や台湾などにおける国際交流と海外促進の取組についても新たな知見を得た。また、留学生支援に関する共通課題を意見交換し、相互理解を深めた。特に、

韓国、台湾の国際交流担当者が留学生支援に取り組む熱意に感銘を受け、共に将来のアジアにおける留学生交流を促進したいという思いを新たにしました。

発表内容として「Lessons Learned from the 3/11 Tohoku Earthquake: Understand How to Provide a Better Crisis Support for International Students」と題し、震災後の危機管理対策、留学生支援、効果的な情報発信について事例を説明し、あわせて動画により留学生の声を伝えた。

例えば、震災後も断続的に続く余震、原発事故、錯綜するメディアの情報で留学生の不安を煽っていた状況において、現地に残った留学生と教職員からの客観的に捉えた情報発信が留学生を安心させるために最も効果的であった。

また、危機管理対策の観点から、入学時の留学生オリエンテーションにおいて、震災を経験した学生と一緒に参加させることで、災害が起きた場合の具体的な対処法やそれぞれの体験談を共有した。さらに、キャンパス・ツアーで避難場所を確認するなど防災意識を高め、日常的な危機管理の重要性について強調した。

発表前、「ふくしま、大丈夫?」という懐疑的な声が多かったが、発表後、参加者の意識が変わったことを実感した。会場において、各大学の危機管理、留学生支援のベスト・プラクティスを共有するなど、留学生交流を担う実務者間のネットワーク形成に参画し、相互理解に努めた。

今後もACFの加盟大学と協力し、ふくしまの特性を生かした魅力ある国際交流プログラムを構築していきたいと思う。

最後に  
これまで国際交流・留学生担当の業務を通して、学生が抱える問題、ニーズに接し試行錯誤しながら留学生への支援を行ってきた。この中で、大学組織としての受入体制の充実、地域の方々との連携が不可欠であることを痛感している。日常的に煩雑な問題を解決するだけでなく、大学および地域の方々との交流、ニーズを通して支援システムが生まれ、さらなるネットワークを構築することができる。今後も学生、教職員、地域の方々とのリエゾンの役割として活躍したいと切に願う。

また、平成25年度に会津大学開学20周年を迎えるに当たり、海外の協定大学からの学長を招いてのシンポジウム、ACFに加盟している日本人学生、留学生によるパネルディスカッション等、様々な国際交流活動を実施する予定である。ぜひ、ふくしまに足を運んでいただきたいと思う。





### 留学生への就職支援

東日本国際大学国際センター 主任 許 桂芹

近年、企業の海外進出や国内の労働人口の減少により、外国人留学生の活用において、積極的に受入企業が増えている。企業側の考えでは、日本人学生と異なるバックグラウンドを持っていることや留学生ならではの発想が重要だという。一方、留学生としては、以前、大学卒業後、大学院への進学や帰国というケースが多かったが、今はせっかく日本で勉強しているので、卒業後、その知識を日本で活かしていきたいと考える留学生、あるいは日本の企業で、ある程度経験を積んだ後、母国に帰りさらに自分の可能性をみたいとする留学生が増えている。

このような状況を踏まえ、本学国際センターは、日本企業への就職希望者と留学生の採用を望んでいる企業の架け橋となるよう、双方の期待に応えるため、積極的に親身な、かつ独自の支援に取り組んでいる。この取り組みが奏功し日本企業に就職する留学生は年々増えている。とりわけ、平成20年以来、東京都、神奈川県、埼玉県、宮城県、本県の郡山市、そして地元いわき市の会社に入社する留学生が増加している。

国際センターで取り込んでいる就職支援は、留学生の最適な進路実現に向けて多様な工夫をこらしているほか、学内のキャリアセンターと連携して、全面的に留学生の就職活動のサポートと支援を行い「何事も留学生と一緒に」という精神を持ち、常に留学生目線で、一人ひとりに合った個別支援を行っている。日ごろから、企業の就職説明会などの情報を集め、参加する留学生に対し、日本独特の就職活動文化への理解や履歴書の書き方、面接の心構え、自己PRの方法など、きめ細かいアドバイスをを行い、会場までの送迎も行っている。また、普段から留学生がアルバイトを行っている会社にセンター職員が実際に出向いて、情報を集め、会社と留学生との相互理解を図り、良好な関係を保つよう努めている。

この春、本学を卒業予定の留学生には、すでに日本企業に内定した者が数名いる。桜の花が咲くころ、ちょうど彼らは新入社員として新しい人生のスタートを切ることでしょ。



### 将来は外資系の企業に就職したい!

日本大学工学部 生命応用化学科4年  
小原 幸法

中学生の頃から勉強してきた英語を母国語とする国は、どのような国なのか、ずっと興味を持っていました。大学1年の頃に受講した英語の授業では、英国を舞台に描かれた「ノッティングヒルの恋人」という本を読み、その映画も鑑賞したことで、ますます英国に惹かれたことが留学を決めたきっかけでした。

留学先は英国ウェールズにあるアベリストウィス大学で、短期留学生のための「English and Communicative skills」というコースに参加して、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの授業を受講しました。授業は、それぞれ個性のある講師が楽しく授業を展開してくれました。例えば、BBCの英語学習教材を用いた授業や映画鑑賞などもあり、楽しみながら学習することを目的としていたので、私には最高の環境でした。

宿舎は寮だったので、食事は自炊をしたり学内にあるレストランや大学付近にあるお店でイギリスの伝統的な食事を食べて過ごしました。

滞在中には色々なイベントも企画されていたため、できる限り参加しました。特に、毎週新しい参加者が来る度に開かれる

歓迎会に出ることで、各国の人と知り合うことができました。また、リバプールなどの都市や中世の城への旅行にも積極的に参加しました。そのため、多くの人とふれあう機会があり、たくさんの友人ができたことで、イベントに参加するだけでなく、彼らと一緒にサッカーの試合を観戦したり、実際に学内のフィールドに出てサッカーなどのスポーツをしたりして楽しみました。

様々な国の人と知り合うことができ、海外生活に対する考え方が変わったことが今回の経験で得られたことです。留学先で知り合った友人とは未だに連絡を取り合っています。留学する以前は英会話の経験もほぼなくて、英語に全く自信がありませんでした。しかし、拙い英語でも伝わる喜びが得られ、英語を使うことを楽しめるようになりました。今では、さらに英語が使えるようになりたいと強く思い始め、今度は長期の留学を検討しています。将来は海外への出張や外国人との接点を持つ外資系の企業に就職したいと考えています。

私にとって留学とは、自分自身の世界観や視野を広げることができる非常に有意義な体験であり、皆さんにも是非お勧めしたいです。

日本大学工学部の  
学部生を対象とした研修旅行

●ヨーロッパ研修旅行

日本大学の学部生及び  
大学院生を対象とした  
短期海外研修プログラム

- ①ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ(イギリス)短期海外研修
- ②ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ大学院コース(イギリス)短期海外研修
- ③エリザベスタウン・カレッジ(アメリカ)短期海外研修
- ④オーストラリア短期海外研修



日本から  
海外へ

福島大学  
行政政策学類 3年  
田中 真衣

## ルール大学ポーフム交換留学 体験記 ～ドイツでの生活について～

平日はドイツ語の授業を受けたりタンデムをしたり、毎日ドイツ語の勉強に励んでいます。タンデムとは、カフェや図書館など好きな場所で、お互いの都合の良い時間を見つけて、互いの言語を教え合う勉強方法のことです。私の場合、1人につき1～2時間程度、図書館にあるカフェなどでタンデムをしています。その他の活動としては、日本歴史学科が行っている自主ゼミに参加しています。これは日本歴史学科の先生から誘いがあり、多くの日本人留学生が参加しています。自主ゼミの時間では、ドイツ人学生と一緒に、日本やドイツに関わる古い資料を分析しています。私がドイツに来てからの目標の中に、「ドイツで習い事をする」というものがありました。現在は、毎週月曜日に大学の合唱団の練習に参加したり、月に2回、水彩画の教室に通ったりしています。

休日は、友だちと旅行をしたり、一緒にカフェに行ったり、ハウスパーティに参加したり、スポーツをしたりなど、さまざまなことを楽しんでいます。

ドイツに来るまではいろんなことに対して不安でいっぱいでした。ですが、たくさんの人に助けられ、毎日がとても充実しています。また、英語を使う機会もあり、ドイツ語も英語も、自分の語学力が未熟で反省することも多くあります。留学前に英語もドイツ語ももっと勉強しておけばよかったという後悔はありますが、現地で一からドイツ語でドイツ語を学ぶことができたことはとても良い経験になりました。



▲友人たちと



▲ルール大学授業風景

日本から  
海外へ

会津大学  
大野 綾香

## 研修報告(ローズハルマン工科大学)

会津大学に入学してから留学生と交流する機会が多く、次第に留学したい気持ちが強くなりました。3週間の研修を通して感じたことは、学生が意見しやすい環境の授業形態や、少しでも疑問に思うことがあるとすぐに質問する学生の積極的な姿勢に、日本との大きな違いを感じました。

今回の留学で英語の発音、文法の大切さ、コミュニケーションの難しさを学ぶと同時に、文化の違いや考え方の違いを感じることができ、実りある研修になりました。留学したことでより英語が話せるようになりたいと強く思ったので、二度目の留学も視野にいて、これからいっそう英語の勉強に力を入れていきたいと思っています。



▲右から3番目が大野さん



▲左が大野さん



▲左から3番目が大野さん

日本から  
海外へ

日本大学大学院 工学研究科 博士前期課程3年  
機械工学専攻 サステナブルシステム研究室  
永澤 和憲

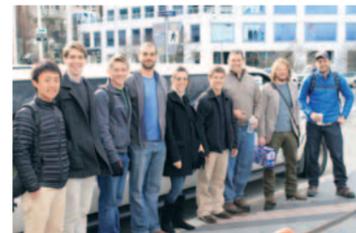
## 世界で学び、研究し、 故郷の福島に貢献したい

平成23年度日本大学大学院海外派遣奨学生さんの機会をいただき、テキサス州の州都オースティンにあるテキサス大学に留学した。大学進学が決まり送られてきた冊子の中に含まれていた留学体験記を読んだときから6年経っていた。その時から漠然と思い描いていた留学が現実になる瞬間だった。

留学には交換留学や語学留学、学位留学、研究留学と様々な形態があるが、私は研究留学として同大学の研究室に一年間滞在させていただいた。エネルギーと持続可能性に関連した多くのテーマの中から、オースティンで立ち上がったばかりの「スマートグリッド」と呼ばれる地域規模のエネルギー管理に関する研究テーマを選ぶことができた。東日本大震災を経験し、福島県郡山市出身の自分としては、福島の復興に少しでも関連するのではないかと考えた。初めての渡米で研究や生活に不自由も感じながらも、見知らぬ地で自分が今まで経験したことが無いことに挑戦していると思うと、不安以上に期待が膨らんでいった。三度の学会に参加し、その中のカリフォルニア州サンディエゴで行われたASMEの学会では講演を行い、一年間の留学を学会論文を書き発表するという形でまとめることができた。

研究留学と言えども、研究だけでなく研究室の仲間を中心として、緑とライブミュージックの町オースティンに相應しいことを多く経験した。自然に囲まれて筋力の限界に対峙したロッククライミングだけでなくカントリーミュージックをBGMとして踊るテキサス・トウステップなどを例に、できる限り日本ではできないことを熱心に体験した。

留学は決して綺麗な話だけではない。明らかに失敗のほうが多いと感じる。共同研究で企業の役人が集まった会席の席で一言も話せなかったこと、引越越し当日になっても次の住まいが決まらなかったこと、たどたどしいステップで嘲笑されパートナーから慈悲の目で見られたこと、どれも後には笑い話になるが、その時は留学での孤独さよりも馴染めない自分に嫌気がさし惨めな気持ちだった。しかしそのような経験を通して自分の世界が広がって行くことも同時に認識することができた。打算的に留学を捉えるのではなく、予期せぬことも許容する気持ちを持って、皆さんも挑戦していただけたらと切に思う。



海外から  
日本へ

福島大学  
経済経営学類 2年  
許 傑弟 [中国]

## 美しい福島 ～福島での出会い～

光陰矢の如し、瞬間に、福島に来て2回目の夏を迎えました。5回目の季節の移り変わり、期末テストで夜なべをしたり、徹夜でサークル仲間とはしゃいだり、時にはホームシックで涙を流したりもしました。福島には何も無いと思われがちですが、ここに素晴らしい風土と人情があるのではないのでしょうか。

福島に来たばかりのころ、中国国内のマスコミによる過剰な放射能問題の報道を見聞きし、意思を固めていた僕も少し動揺してしまいました。初めの2週間は、外出の時は必ずマスクをつけ、できるだけ隅っこや水だまりなどの場所を避けるようにしていました。しかし、放射能について勉強をしているうちに、これらの防御対策も自然と要らないものとなりました。日本政府は真剣に放射能問題に取り組んでいます。特に福島大学では、去年、構内の表土の入れ替えを徹底的に実施し、コンクリートブロックも高圧洗浄で除染されました。様々なサークル活動や、素敵な出会いなど、今は福島での生活はとても楽しいです。僕は毎日ジョギングしています。それは、詩のような田園風景の美しさに誘われたからです。すれ違ったお年寄りたちはいつも親しく声掛けてくれます。キャンパスの夜の雪景色と春の満開の桜もこの上ない美しさを見せてくれます。先日、僕は福島のわらじ祭りに行きました。東京の祭りよりもはるかに賑やかでした。何かの縁で出会い、さらに相知ることは得難いものです。共にこの素敵な縁をみつければよいではありませんか。



海外から  
日本へ

会津大学  
ドナ マーシュ [アメリカ]

## JASSOプログラム最終報告書

会津大学での留学生活で過ごした私の時間は、私の人生を変えた素晴らしい体験となりました。私は、自分にその機会があるとは想像もしなかった、素晴らしい経験をしながら過ごすことができました。新潟、只見、東京という異なる所を旅行し、それぞれの地域の歴史と文化を学びました。

私は、只見にある自然博物館、東京の上野の森美術館、そして新潟市美術館などを訪れることで、日本の歴史と文化に浸ることができました。そばの手打ちや、山開きの日に行った磐梯山の山頂への登山などの催しにも参加し、また飯盛山、白虎隊のお墓、鶴ヶ城や日新館の侍学校など、歴史的に重要な場所も訪問しました。

海外への留学、特に日本に留学することについて不安を感じていたことを、私は自ら認めます。日本語が実際には全く分かりませんでしたので、友人を作ることもできず、帰国までの日を指折り数えるだろうと思っていました。それでも留学は、世界の知らない部分を見出し、他の国の人がアメリカ人とアメリカを実際にどのように見ているかを知り、全く新しい状況と環境の中に自分の身を置くための絶好の機会となるだろうと考えました。

また、日本はどこどころかということに関して私のなかにいくつかの固定観念があったことも認めません。日本人の誰もが柔軟性に全く欠け、よそよそしく、すべてが極端なハイテクの世界だろうと考えていました。私はさらに、日本では放っておかれ、日本に落ち着くという課題の不安に押しつぶされるか、または甘やかされすぎて日本の日常生活の現実を理解できないのではないかと心配しました。

ここ会津に到着すると、歓迎されていることを感じ、くつろいだ気持ちになりました。自分の経験を通して多くの新しい友人を得ると共に、物事に対する見方が変わりました。この地の皆さんは、皆さんの地域社会に私を受け入れてくれ、自らの一員のように私を扱ってくれました。私は、自分自身の経験をすることができましたが、会津の地域社会全体は、私が必要とするときには力になってくれました。文化イベントに参加し、パーティやパレードにも参加し、友人達とカラオケにも行き、小学校ではプレゼンテーションまで行いました。

会津に到着する前は、私の目標は主に単位を取って卒業できるよう、いくつかの科目を受講することだと思っていました。滞在が長くなるにつれ、直に日本を経験するために私はここにいるのであり、世界の他の国々の動静がどのようであるかをますますよく理解するようになりました。最近、日本での体験と、私が直面した困難なことにおける主な違いについてプレゼンテーションをするよう依頼されました。この発表の準備中に、どこに行こうとも、人々はほとんど同じであるということを実感しました。すべての人が幸せです。大きな人生を願っており、ほとんどの場合、善良な人々です。多くの人が人々の間には大きな違いがあり、絶対に乗り越えることができないと考えているようですが。

私がこの会津大学で過ごした時間は、本当に素晴らしいものでした。この経験によって、私は海外留学を大いに推奨し、また、海外留学は高等教育における必修課程となるべきであると考えます。こんな短期間ではありましたが、日本を訪問したことが、それまでは遠くて、閉ざされていた世界全体に向けての私の目を開かせてくれたのだと感じています。私が世界のもう一つの場所で学び、働き、生活し、なんとかやっていって、幸せになり、成長することが本当にできるのだということを私は、今では理解しています。

最後に、私は、また海外留学をしたいと願っていますが、同時に、他の人達も海外留学することは非常に重要であり、その人達の人生を変えるような出来事になるだろうと思っていることもお伝えして、私の報告いたします。



▲右から2番目がドナさん

海外から  
日本へ

東日本国際大学  
エヴァン セティオン [オーストラリア]

## 日本で学んで

高校3年の時、僕はGAP YEARを利用して交換留学プログラムに参加し、郡山の高校で10ヶ月間学びました。GAP YEARとはオーストラリアやイギリス独自のシステムで、希望すれば高校卒業後、1年間休みを取れるというものです。これを利用して、ボランティアをしたり僕のように外国に留学する学生も多いです。日本の高校で学ぶことは自分で選んだのですが、初めは大変でした。日本語は全然分からないし、外国へ一人で行くのも初めてです。ましてや見知らぬ国でホームステイをしながら高校に通うのは僕にとって大きなチャレンジでした。

留学中は学ぶことが多く、日本語だけではなく、日本の文化や経済などにも興味を持ちました。また留学はアジアの国々にも目を向けるきっかけとなりました。アジアの発展途上国は昔の日本にそっくりであることなども分かりました。また素晴らしい伝統文化のあった国々も経済発展後はそれを失ってしまいがちなことなども知りました。留学生活の終わりには、自分の日本語がまだ中途半端なこと、このまま帰国するのは納得できないことから、必ず日本に戻ろうという思いが強くなっていました。帰国後もその思いはずっと変わりませんでした。そして一昨年また日本に留学できることになり、東日本国際大学の別科に入学しました。

「光影矢のごとし」と言いますが、この2年は本当にあっという間に過ぎました。

今、はっきりと言えることは日本に戻ってきて良かった!ということです。大学はとても楽しく、また生活も充実しています。半年経った頃には日本語能力試験2級にも合格しました。またアルバイトも、おこのみやきやと英会話スクールの教師をしています。教師として働いた経験がなかった僕にとっては、これも大きなチャレンジです。

これからの僕の目標は、大学に進学し経済を学ぶことによって広い知識を得ること、日本語の勉強も続けて日本語能力試験の1級に合格すること、そして貴重な経験であるアルバイトもしっかりと4年間続けることです。これらを実行すれば僕には明るい未来が拓けていくと信じています。



海外から  
日本へ

東日本国際大学  
李 琳 [中国]

## 私の心の中の日本

日本は美しい国です。山も川の水もきれいで、しかもみな独特の風情があります。私は日本に暮らして1年しか経っていませんが、自分の故郷に対する日本人の愛着と、それを大事にする気持ちを強く感じています。ここに暮らしている誰もが、それを守ろうとしています。そしてそのすべては、なんて素晴らしいでしょう。このような自然に存在するすべてのものに、私の心はしっかりと引きつけられています。

日本と中国は距離的に近い国です。両国の文化も似通っています。同じ文字を使い、同じ孔子を学ぶ。また同じ「水滸伝」や「西遊記」などの「四大名著」をこよなく愛読しています。

しかし、両国はそれぞれ独特の文化もあります。このように似通っている中にも異なる文化が存在している点は、日本に来たばかりの私に親近感を与えてくれます。私は今、少しも戸惑いや恐怖を感じないで生活しています。

ここ日本は確かに快適で心を和ませることのできる場所です。できれば、いつまでもこの自然豊かで気持ちのいい日本で暮らしていきたいと思っています。

海外から  
日本へ

日本大学大学院 工学研究科 博士前期課程 1年  
機械工学専攻  
プラワットローイ ノツパドン [タイ]

## 素晴らしい留学体験

微笑みの国として知られているタイのバンコクに接するサムットプラーカーン県から2006年10月に来日しました。初めの1年半は東京で日本語を勉強し、2008年に福島県郡山市にある日本大学工学部に入り、今は大学院で機械工学を勉強しています。

この6年間の留学は、私の物事に対する考え方、生活態度、将来の生き方などを多面で見ることができる素晴らしい体験となっています。特に初めての海外留学で、初めて一人暮らしをして、たくさんの場面において苦労と喜びを実感することができました。大学生生活では勉強や研究で忙しい毎日ですが、これまで何の問題もなく進められたのは、仲間の助けや先生方の一生懸命なご指導のおかげだと感謝しています。また、大学では吹奏楽部に入り、トランペット演奏していました。そこでは、他学科・多学年の良い仲間もたくさん作れました。私生活では日本の文化や生活習慣を身に付けるために、休みの日には友人達とよく遊びに行ったりしています。町の祭りなどにも積極的に参加し、日本でしかできないたくさんの体験を積んでいます。例えば県内では浅川町の花火大会、安積永盛駅前の盆踊り、須賀川市の長沼まつり、松明あかしなどです。

このようにたくさんの日本人と接することで異なる価値観や考え方を体験し、お互いを理解することで将来、私自身が日本とタイの架け橋になり、ますます友好な関係を築いていきたいと考えています。



▲左が李琳さん



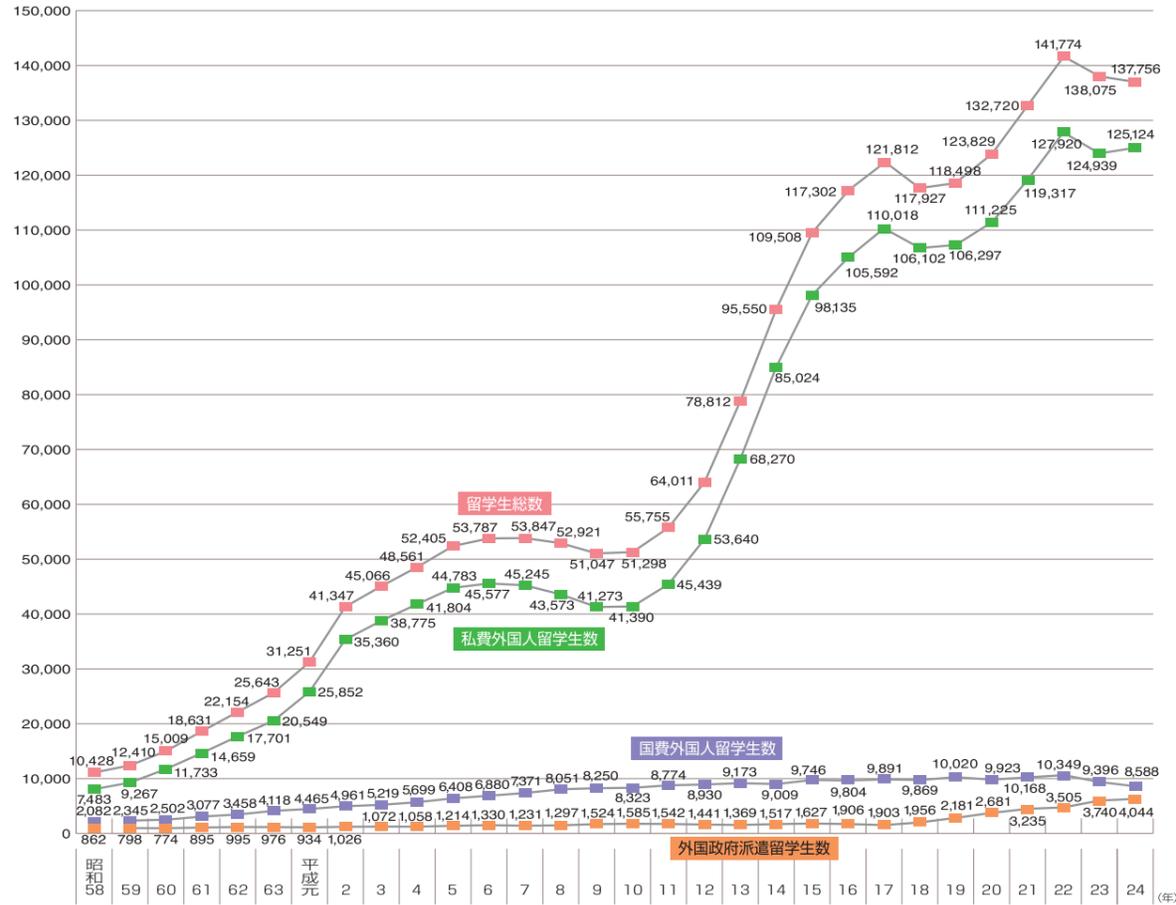
▲右から2人目がノツパドンさん

# 外国人留学生の受け入れ状況

我が国の大学等で学ぶ留学生は、平成23年5月1日現在138,075人で、平成22年度に比べ3,699人(2.6%)減少した。これを出身地域別に見ると、我が国の地理的、文化的状況もあり、アジア地域からの留学生が全体の約9割を占めている。

また、出身地域では、中国、韓国及び台湾からの学生が全体の78.8%を占めている。

留学生数の推移 大学・専門学校等の在籍者数(各年5月1日現在)



## 出身国・地域別留学生数

※大学・専門学校等の在籍者に限る  
(平成23年5月1日現在)

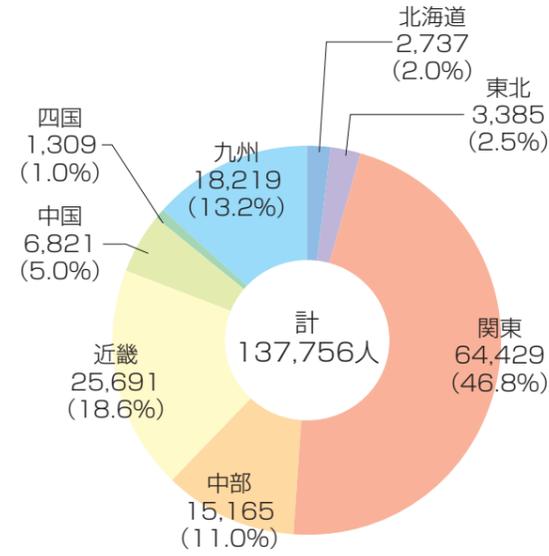
国・地域名	留学生数(人)	構成比
中国	86,324	62.7%
韓国	16,651	12.1%
台湾	4,617	3.4%
ベトナム	4,373	3.2%
ネパール	2,451	1.8%
マレーシア	2,319	1.7%
インドネシア	2,276	1.7%
タイ	2,167	1.6%
アメリカ合衆国	2,133	1.5%
ミャンマー	1,151	0.8%
その他	13,294	9.5%
計	137,756	100%

(文部科学省及び(独)日本学生支援機構調べ)

# 地方別・都道府県別留学生数

※大学・専門学校等の在籍者に限る(平成23年5月1日現在)

北海道	2,737
青森	281
岩手	350
宮城	1,872
秋田	355
山形	225
福島	302
茨城	2,638
栃木	1,075
群馬	1,366
埼玉	5,877
千葉	5,290
東京	43,500
神奈川	4,683
新潟	1,533
富山	567
石川	1,570
福井	288
山梨	841
長野	774
岐阜	1,406
静岡	1,563
愛知	6,623



注) 他府県にまたがる大学等の留学生については、本部の所在する都道府県に計上した。

三重	946
滋賀	454
京都	6,900
大阪	10,521
兵庫	5,128
奈良	1,463
和歌山	279
鳥取	183
島根	195
岡山	2,273
広島	2,499
山口	1,671
徳島	332
香川	351
愛媛	462
高知	164
福岡	10,434
佐賀	292
長崎	1,461
熊本	724
大分	3,562
宮崎	170
鹿児島	968
沖縄	608

(文部科学省及び(独)日本学生支援機構調べ)

## 福島県の 関連資料

# 福島県内高等教育機関における 外国人留学生の受け入れ状況

## 国費・私費別外国人留学生数

(平成23年10月1日現在)

留学生の所属大学等区分	福島県立医科大学	会大	津学	会津大学短期大学部	奥大	羽学	日大工学部	郡女大	山子大	郡山女子大学短期大学部	いわき明星大	東日本国際大	いわき短大	福学大	島院大	福島学院大学短期大学部	校の聖母短期大学	福島工業高等専門学校	福大	島学	計	%
国費		6																1	5	12	3.1	
政府派遣		5					4														9	2.3
県費																					0	0.0
私費	2	47					20				4	161								138	372	94.7
計	2	58	0	0	0	24	0	0	4	161	0	0	0	0	0	0	0	0	1	143	393	100.0

(平成24年10月1日現在)

留学生の所属大学等区分	福島県立医科大学	会大	津学	会津大学短期大学部	奥大	羽学	日大工学部	郡女大	山子大	郡山女子大学短期大学部	いわき明星大	東日本国際大	いわき短大	福学大	島院大	福島学院大学短期大学部	校の聖母短期大学	福島工業高等専門学校	福大	島学	計	%	
国費		8																			3	11	3.8
政府派遣		10																			10	3.5	
県費																					0	0.0	
私費	2	32					14				2	114								102	266	92.7	
計	2	50	0	0	0	14	0	0	2	114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	105	287	100.0	

※留学生受け入れがない大学は、計上していません。

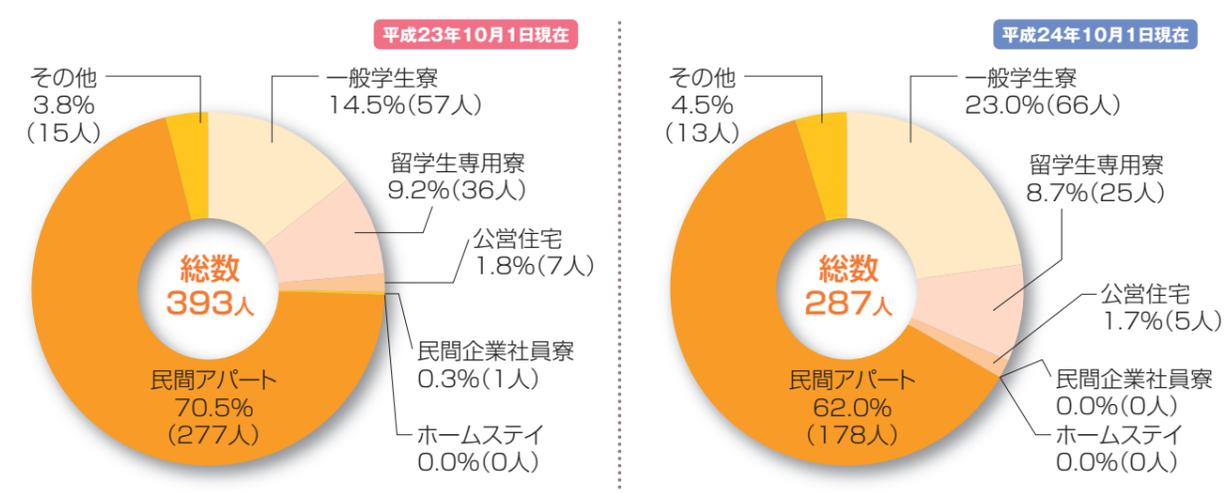
# 国・地域別外国人留学生数 (平成23年10月1日現在)

地域・国別	所属大学等	所属大学等							地域別割合
		医福 科島 大県 学立	会 津 大 学	工日 本 学 大 部 学	大 い わ き 明 星 学 星	大東 日 本 国 際 学 際	福 島 大 学	計	
アジア	中国	2	16	9	1	59	79	166	97.2%
	台湾		6			1	1	8	
	韓国		2		1	17	9	29	
	ネパール					16		16	
	モンゴル			1		2	5	8	
	マレーシア			3			2	5	
	インドネシア								
	ミャンマー					18		18	
	ベトナム		11				8	19	
	ラオス		1					1	
	タイ				1			1	
	フィリピン						1	1	
	スリランカ			5				5	
	インド			2				2	
	バングラディッシュ								
計		2	43	14	2	113	105	279	
北米中南米	ブラジル								0.3%
	ペルー								
	エルサルバドル		1					1	
	コロンビア								
	アメリカ								
計		0	1	0	0	0	0	1	
オセアニア	オーストラリア					1		1	0.3%
	計		0	0	0	1	0	1	
ヨーロッパ	ドイツ								1.4%
	ブルガリア		1					1	
	ハンガリー								
	ロシア			3				3	
計		0	4	0	0	0	0	4	
アフリカ	ナイジェリア								0.7%
	ウガンダ								
	チュニジア		2					2	
	コンゴ民主共和国								
	タンザニア								
計		0	2	0	0	0	0	2	
合計		2	50	14	2	114	105	287	100%

# 私費留学生の奨学金別受給状況 (平成24年10月1日現在)

奨学金名称	国・地域	人数	機関名	
			人数	機関名
(財)ロータリー米山記念奨学金	大学院	5	福島大学	
		2	会津大学	
	大学院	1	日本大学工学部	
		1	福島県立医科大学	
	学部	2	福島大学	
		1	会津大学	
	学部	1	東日本国際大学	
		1	日本大学工学部	
	学部	1	いわき明星大学	
		計	15	
日本学生支援機構学習奨励費	大学院	7	会津大学	
		3	福島大学	
	学部	12	東日本国際大学	
		8	福島大学	
	別科	1	東日本国際大学	
	計	31		
彌満和奨学会奨学金	大学院	1	福島大学	
	学部	6	福島大学	
	計	7		
小林奨学財団奨学金	大学院	1	福島大学	
	学部	1	福島大学	
	計	2		
(財)日揮・実吉奨学金	大学院	1	日本大学工学部	
	学部	1	日本大学工学部	
日本大学工学部第3種奨学生	大学院	2	日本大学工学部	
	学部	1	日本大学工学部	
JEES奨学金	学部	1	福島大学	
	学部	1	東日本国際大学	
留学生交流支援制度(短期受入れ)奨学金	大学院	2	会津大学	
	学部	1	福島大学	
安田奨学財団奨学金	学部	1	福島大学	
	学部	2	福島大学	
マフチ国際育英財団奨学金	学部	2	福島大学	
	大学院	2	会津大学	
会津大学デュアルディグリープログラム奨学金	大学院	2	会津大学	
	学部	1	東日本国際大学	
金子国際文化財団奨学金	学部	1	東日本国際大学	
ヒロセ奨学財団奨学金	学部	1	福島大学	
会津大学「国際IT日新館」奨学金	大学院	1	会津大学	
日本大学特待生	学部	1	日本大学工学部	
佐藤陽留學生奨学制度	学部	1	福島大学	
平和中島財団奨学金	学部	2	福島大学	
総計		77		

# 留学生の寄宿状況



平成24年度 福島県内高等教育機関における研究・教育交流協定締結校名 (平成24年10月1日現在)

[地域] 1 アジア 2 北米 3 中南米 4 オセアニア 5 欧州 6 アフリカ

大学名	交流協定締結校	国名	所在地	学術交流協定締結	学生交流協定締結	留学生受け入れ数	学生派遣数	地域
会津大学	インド工科大学デリー	インド	ニューデリー	○	○			1
	コンジュ国立大学	韓国	忠清南道公州市	○	○	2		1
	ソウル市立大学	韓国	ソウル市	○	○			1
	ハリム大学	韓国	江原道春川市	○	○			1
	浦項工科大学X線画像センター	韓国	慶尚北道浦項市	○	○			1
	延世大学バイオメトリクス工学研究所	韓国	ソウル市	○	○			1
	釜山国立大学	韓国	釜山広域市	○	○			1
	高麗大学	韓国	ソウル特別市	○	○			1
	忠北大学校	韓国	忠清北道清州市	○	○			1
	APEC気候センター	韓国	釜山市	○	○			1
	国立暨南国際大学	台湾	南投県埔里鎮	○	○			1
	淡江大学	台湾	台北県	○	○			1
	朝陽科技大学	台湾	台中県霧峰郷	○	○	5		1
	国立中央大学大学院天文研究所	台湾	桃園県中壢市	○	○			1
	ハルビン工業大学	中国	黒龍江省	○	○	1		1
	華中科技大学	中国	河北省武漢市	○	○	1		1
	上海交通大學	中国	上海市	○	○			1
	上海大学	中国	上海市	○	○			1
	中国科学院近代物理研究所	中国	甘粛省蘭州市	○	○			1
	南京大学	中国	南京市	○	○			1
	復旦大学	中国	上海市	○	○			1
	北京大学軟件微電子学院	中国	北京市	○	○			1
	北京大学核物理総合研究センター	中国	北京市	○	○			1
	大連東軟信息学院	中国	大連	○	○			1
	中南大学	中国	湖南省長沙市	○	○			1
	FPT大学	ベトナム	ハノイ市	○	○			1
	ハノイ工科大学	ベトナム	ハノイ市	○	○	10		1
	ベトナム国家大学ハノイ国際外国語大学	ベトナム	ハノイ市	○	○			1
	郵政電信工芸学院	ベトナム	ハノイ市	○	○	1		1
	ベトナム国家大学ハノイ工業技術大学	ベトナム	ハノイ市	○	○			1
	ベトナム国家大学ホーチミン市国際大学	ベトナム	ホーチミン市	○	○			1
	ウエストバージニア大学	米国	ウエストバージニア州	○	○			2
	サウスカロライナ大学	米国	サウスカロライナ州	○	○			2
テイラー大学	米国	テネシー州	○	○			2	
マーサー大学	米国	ジョージア州	○	○			2	
ローズハルマン工科大学	米国	インディアナ州	○	○		1	2	
ワイカト大学	ニュージーランド	ワイカト	○	○			4	
ボルト大学	ポルトガル	ボルト	○	○			5	
ローマ大学サピエンツァ	イタリア	ローマ	○	○			5	
ウメオ大学	スウェーデン	ウメオ	○	○			5	
デュッセルドルフ専門大学	ドイツ	デュッセルドルフ	○	○			5	
ミュンヘン工科大学	ドイツ	ミュンヘン	○	○			5	
ロレーヌ工科大学	フランス	メットリエーヌ	○	○			5	
国立応用科学院レンヌ校	フランス	レンヌ	○	○			5	
グダニスク工科大学	ポーランド	グダニスク	○	○			5	
ポーランド日本情報工科大学	ポーランド	ワルシャワ	○	○			5	
ティミソアラ工科大学	ルーマニア	ティミソアラ	○	○			5	
東フィンランド大学	フィンランド	ヨエンスウ	○	○			5	
マックス・プランク分子遺伝学研究所	ドイツ	ベルリン	○	○			5	
サンクトペテルブルク工科大学	ロシア	サンクトペテルブルク	○	○			5	
サンクトペテルブルク情報技術・機械・光学大学	ロシア	サンクトペテルブルク	○	○			5	
サンクトペテルブルク電気工科大学	ロシア	サンクトペテルブルク	○	○	1		5	
サンクトペテルブルク大学	ロシア	サンクトペテルブルク	○	○			5	
ノボシビルスク国立工科大学	ロシア	ノボシビルスク	○	○			5	

大学名	交流協定締結校	国名	所在地	学術交流協定締結	学生交流協定締結	留学生受け入れ数	学生派遣数	地域	
会津大学	ノボシビルスク国立大学	ロシア	ノボシビルスク	○	○			5	
	モスクワ工科大学	ロシア	モスクワ	○	○			5	
	モスクワ物理工科大学	ロシア	モスクワ	○	○			5	
	モスクワ教育大学	ロシア	モスクワ	○	○			5	
	アフリカ科技大学	ナイジェリア	アブジャ	○	○			6	
奥羽大学	慶熙大学	韓国	ソウル市	○	○			1	
	ロマリンド大学	アメリカ	カリフォルニア	○	○			2	
日本大学工学部	テキサス大学オースチン校工学部	アメリカ	テキサス	○	○		1	2	
	ルーヴァン・カトリック大学工学部	ベルギー	ルーヴァン・ラ・ヌーヴ	○	○			5	
	ウメヲ大学理工学部	スウェーデン	ウメヲ	○	○			5	
東日本国際大学	和春技術学院	台湾	高雄県	○	○			1	
	金浦大学	韓国	京畿道	○	○			1	
	世京大学	韓国	江原道	○	○			1	
	成均館大学校	韓国	ソウル	○	○			1	
	開南大学	台湾	桃園県	○	○			1	
	安徽大学	中国	安徽省合肥市	○	○			1	
	曲阜師範学校	中国	山東省曲阜市	○	○			1	
	曲阜師範大学	中国	山東省曲阜市	○	○			1	
	香港孔教學院	中国	香港九龍	○	○			1	
	中国政法大学	中国	北京	○	○			1	
	大連民族学院	中国	遼寧省大連市	○	○			1	
	撫順師範高等専科学校	中国	遼寧省撫順市	○	○			1	
	瀋陽体育学院	中国	遼寧省瀋陽市	○	○			1	
	牡丹江大学	中国	黒竜江省牡丹江市	○	○			1	
	山東大学	中国	山東省済南市	○	○			1	
	ファースト・グローバル・コミュニケーション・カレッジ	タイ	ノンカイ	○	○			1	
	カリフォルニア州立総合技術大学	アメリカ	カリフォルニア州	○	○			2	
	ハワイ州カウアイ・コミュニケーション・カレッジ	アメリカ	ハワイ	○	○			2	
	福島大学	北京師範大学	中国	北京市	○	○			1
		韓国外国語大学校	韓国	ソウル市	○	○		2	1
		白石大学校・白石文化大学	韓国	天安市	○	○			1
		国立台北大学	台湾	台北市	○	○			1
		河北大学	中国	保定	○	○	1	2	1
華東師範大学		中国	上海市	○	○			1	
中南財経政法大学		中国	教育省	○	○			1	
ベトナム国家大学ハノイ自然科学大学		ベトナム	ハノイ市	○	○			1	
ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学		ベトナム	ハノイ市	○	○			1	
ウイスコンシン大学		アメリカ合衆国	オークレア市	○	○			2	
ミドルテネシー州立大学		アメリカ合衆国	マーフリースポロー	○	○		1	2	
クィーンズランド大学		オーストラリア	ブリスベン	○	○		4	4	
スターリング大学		スコットランド	スターリング	○	○			5	
ウィンチェスター大学		英国	ウィンチェスター	○	○			5	
ルール大学ボーフム		ドイツ	ボーフム	○	○		2	5	
ソウル市立大学校		韓国	ソウル	○	○			1	
西南交通大学		中国	四川省成都市	○	○			1	
ブカレスト大学	ルーマニア	ブカレスト	○	○		2	5		
ベラルーシ国立大学	ベラルーシ	ベラルーシ	○	○			5		
福島工業高等専門学校	Thammasat University	タイ	バンコク	○	○			1	
	Middlesex University	英国	ロンドン	○	○			5	
	リールA技術短期大学	仏国	フランス	○	○	2	3	5	
いわき明星大学	ヘルシンキメトロボリア応用科学大学	フィンランド	ヘルシンキトゥルク	○	○			5	
	リョウネイ	中国	遼寧省撫順市	○	○			1	
福島県立医科大学	瀋陽薬科大学	中国	遼寧省瀋陽市	○	○	1		1	
	武漢大学	中国	湖北省武漢市	○	○			1	

## アカデミア・コンソーシアムふくしま

事務局:福島大学地域連携課内

住 所:〒960-1296 福島市金谷川1番地

電 話:024-548-5295 FAX:024-548-5296

発 行:平成25年3月